



学校教育目標

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」

～誇りの持てる学校に、誇りの持てる自分に～



一年の計は元旦にあり

おだやかな年明けとなりました。2019年のスタートです。

新年あけましておめでとうございます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は本校教育活動にご理解ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

「一年の計は元旦にあり」元旦には必ず思い出すことわざです。子どもの頃から何度も耳にしたこのことわざです。私も年頃には目標・計画を立て、実行しようと決意し、そして三日坊主で終わる、を繰り返してきました。このことわざは、「1年間の目標や計画は、元旦に決めるのが良い。何事も最初の計画や準備が大切である。」という意味です。由来をひも解いてみると、諸説ありますが、2つの説が有力といわれています。一つは毛利元就の言葉、もう一つは中国の書物「月令広義」の一節です。そして、どちらもこの言葉には前段や続きがあります。「一年の計は春にあり、一月の計は朔（ついたち）にあり、一日の計は鶏鳴（一番鶏が鳴く早朝）にあり。」とは、毛利元就の言葉です。年の初め、月の初め、一日の初めの朝に、目標を立て、計画や見通しをしっかりとって取り組むことが大事ということわざだったのだと改めて知ることができました。学校でも、節目となる時が何回かあります。年度の初め、学期の初め、そして新年。子どもたちが気持ち新たに目標をもち、日々の生活を大切にしながら成長していったほしいと願っています。 **小さくても、まず「一歩踏み出す」**

「思い」は、人生の種

心が呼ばなければ、やり方も見えてこないし、成功も近づいてこない。だからまず強くしっかりと願望することが重要である。だれの人生もその人が心に描いたとおりのものである。思いはいわば種であり、人生という庭に根を張り、幹を伸ばし、花を咲かせ、実をつけるための、もっとも最初の、そしてもっとも重要な要因なのである。稲森和夫さんの言葉です。

まずは自分の「思い」がスタートであり原点であり、「思い」がなければどんなことも成し遂げられないということです。自分の目標を為し得るためには、この「思い」というものが、何よりも大切です。しかも、並みに思ったのではダメです。「すさまじく思う」ことが大切。漠然と「そうできればいいな」と思う生半可なレベルではなく、強烈な願望として、寝ても覚めても四六時中そのことを思いつづけ、考え抜く。それほどまでひたむきに、強く一筋に思うこと。そのことが、物事を成就させる原動力となるのです。3年生のみなさん、自分の目標に向かって、今こそ、がんばるとき。

京都府アンサンブルコンテスト



荒川さん、今川さん、堤さん。
金賞受賞おめでとうございます。